

MSUB 留学報告書

文学部英語英米文学科 4年

松村 孝彦

1. はじめに

私がこの交換留学に応募したきっかけは大学二年生の夏休みに三週間ほどカナダの語学学校へ短期の留学をしたことだった。語学学校だったので学校には日本人がとても多く日本人以外でもアジア圏の人がほとんどだった。そのため、現地の方と触れる機会も少なく、三週間では英語力も全然上達しなかった。そこで、もっと長い期間、それも語学学校ではなく大学に通って現地の人ともっと触れ合いたいという気持ちになり MSUB への交換留学に応募することを決めた。

2. 夏期語学研修

8月15日に現地に着いてから9月に大学の授業が始まるまでの三週間は、語学研修に参加した。午前中は大学内で授業を受け、午後は博物館や図書館に足を運んだり大学外でのアクティビティーが中心だった。午前の授業では私たちが日常生活で使う単語やフレーズを学んだ。午後のアクティビティーでは現地の人との交流をして会話力を磨いた。この語学研修の期間はホストファミリーの家に滞在していた。土日はホストファミリーと一緒に過ごしていた。私のホストファミリーは4人の子どもがいたので、子ども達と庭のトランポリンで遊んで過ごすことが多かった。子ども達からは元気をもらえたとし、ホストマザー、ホストファーザーはとても親切で常に私のことを気にかけてくれていた。この研修中にイエローストーン国立公園へ2泊3日で行っ



た。

3. 大学生活

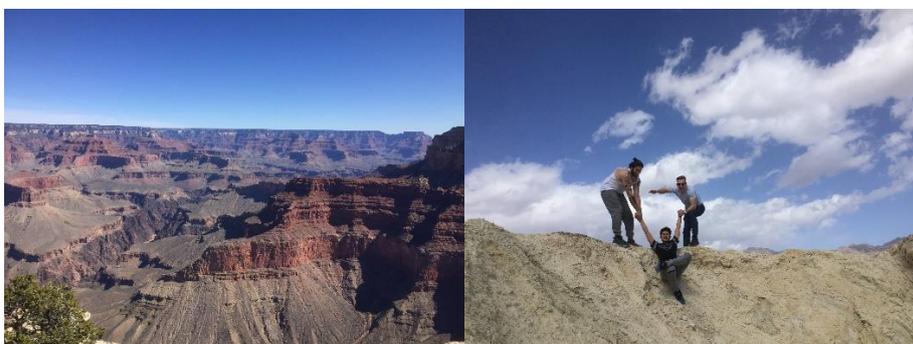
夏期語学研修が終わり、9月からついにモンタナ州立大学ビリング校での大学生活が始まった。ホストファミリーの家を出てここからは、大学の敷地内にある大学寮に住んでいた。私は最初の学期はアメリカ人のルームメイトと一緒に住んでいた。二学

期目はシングルルームに引っ越した。前期はスピーキング力を上げようとコミュニケーションのクラスを中心に取った。そこで、当たり前のことではあるが、英語でコミュニケーションするには単に英語を話せば良いのではなく相手の行っていることをまず理解しなくてはならない。当初は周りの話す英語のスピードについていけず苦労することも多かったが、先生達がとても親切で助けられながら何とか授業についていった。大学ではやはりアメリカ人がほとんどで、**International student** もいるが、日本人は私を含めて3人しかおらず、カナダの語学学校とは違い、英語に常に囲まれた環境だった。英語力向上という点ではとても良い環境だと思った。休日には、慣れない頃は宿題をするだけで精一杯だったが、慣れてきた頃には、友達とご飯を食べに行ったり友達の家でみんなと遊んだりして過ごすことが多かった。大学内でもダンスパーティーや映画鑑賞などたくさんイベントがあり楽しめた。



4. 旅行

旅行は冬休みにカリフォルニア州に、春休みには車でラスベガスやグランドキャニオンなど色々な場所を訪れた。カリフォルニアには日本人三人で旅行したが、春休みの車旅はドイツ人一人とイラン人二人と四人で行った。日本人以外と旅行することは初めてで、八日間、一切日本語を話すこともなく過ごしたことはとても良い経験になった。文化が違えば考え方というのは、やはり違ってくる。それでもその八日間はとても楽しかったし、国や文化が違うからこそ色々な発見がありとても良い思い出になった。



5. さいごに

私の留学での一番の目的は英語力の向上だった。だから、私は常に勉強を第一に考えていた。しかし、留学を終えて、私が九ヶ月の留学で一番良かったこと、得たものは何かと考えた時、英語力と言うよりは向こうで出会った友達だった。例え生まれた国や文化が違え、英語を使って会話ができて、一緒に笑い合えるということを知った。勉強する時間も大切だったが、もっと友達と過ごす時間を大切にすれば良かったと今では思う。しかし、日本に帰国してからも向こうの友達とは連絡を取り続けている。それほど、彼ら、彼女らは私にとって大切な友達になり、心から留学して良かったと思える。

